

玉名高等学校(全日制) 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標
(1)【た】高い志と誠実さを持ち、世のため人のために貢献できる資質・能力を育成する。
(2)【ま】真面目さとチャレンジ精神を持ち、問題や課題に立ち向かう資質・能力を育成する。
(3)【な】仲間とともに切磋琢磨し、豊かな知性と感性を磨き続ける資質・能力を育成する。

2 本年度の重点目標																				
(1)教育スローガン: 夢実現・未来への挑戦～知性と感性を備えた若駒たれ!																				
(2)教育活動取組のテーマ:																				
【至誠】ものごとを「肯定」的に捉え、よりよい世界のあり方を「想像」しながらその実現に向けて「貢献」しようとする「誠実さ」を備えさせる取組を行う。																				
【剛健】「挑戦」することをおそれず、試行錯誤しながら取組を「持続」し、限界「突破」に向けて最後までやり抜こうとする「たくましさ」を備えさせる取組を行う。																				
【進取】ものごとの本質を「探究」するために、他者と「協働」しながら課題に取り組み、新たな解決策を「創造」しようとする「先取性」を備えさせる取組を行う。																				
(3)玉名高校生に身につけさせたい「9つの資質・能力」																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>校訓</th> <th>至誠 (誠実さ)</th> <th>剛健 (たくましさ)</th> <th>進取 (先進性)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資質・能力</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>① 肯定力</td> <td>② 挑戦力</td> <td>③ 探究力</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等</td> <td>④ 想像力</td> <td>⑤ 持続力</td> <td>⑥ 協働力</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力、人間性等</td> <td>⑦ 貢献力</td> <td>⑧ 突破力</td> <td>⑨ 創造力</td> </tr> </tbody> </table>	校訓	至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)	進取 (先進性)	資質・能力				知識・技能	① 肯定力	② 挑戦力	③ 探究力	思考力・判断力・表現力等	④ 想像力	⑤ 持続力	⑥ 協働力	学びに向かう力、人間性等	⑦ 貢献力	⑧ 突破力	⑨ 創造力
校訓	至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)	進取 (先進性)																	
資質・能力																				
知識・技能	① 肯定力	② 挑戦力	③ 探究力																	
思考力・判断力・表現力等	④ 想像力	⑤ 持続力	⑥ 協働力																	
学びに向かう力、人間性等	⑦ 貢献力	⑧ 突破力	⑨ 創造力																	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の削減や効率化が進み、職員の時間外勤務時間が、法令で定められた上限の範囲内となった状態を目指す。	①ICTの活用等による業務の効率化をさらに進める。 ②時間外勤務の状況等を衛生委員会の機能を強化しつつ検証し、業務改善や業務分担を進める。	B	【成果】職員の時間外勤務時間の平均が、法令で定められた上限の範囲内となり、生徒と向き合う時間をある程度確保できた。 【課題】業務の見直し、改善に継続的に取り組んでいるものの、全体としての職員の業務時間の縮減にはつながっていない。
	安心・安全な学校づくりの推進	安全点検の実施と改善	各学期に1回、教室や施設等の安全点検を実施する。点検率100%の状態を目指し、屋内外の不要物の廃棄を行う。	①学校安全担当が立案し全職員で取り組む。 ②担任、教科、掃除区域担当者を中心に日頃から意識を高め、啓発を行っていく。	B	【成果】各学期において1回の安全点検を確実に実施することができた。 【課題】営繕が必要な部分は、引き続き事務室と連携して対応していきたい。
学力向上	確かな学力の養成と授業の充実	新学習指導要領の主旨と新しい学力観に沿った授業力の向上	教科横断的な授業の効果的な実践を目指し、生徒の興味関心を引き出す。ALTや外部講師との連携授業も活用する。	①シラバスを作成し、学期または年度末に振り返る。 ②教育課程検討委員会を活用し、新教育課程が有機的に実践されているか、学習効果の検証を行う。 ③授業アンケートの生徒の意見	B	【成果】新しい学力観に基づく評価を3段階から5段階へ見直し、生徒の学習の見通しと評価への納得感を高めることができた(生徒の真の学力が図れた)。 【課題】新教育課程における時数管理や時間割の運用などさらなる円滑な運営を目指す必要がある。また、「生徒が主体となる授業」の質

				をもとに、より生徒が主体となる授業改善を図る。		的向上に向け、さらに授業を充実させる必要がある。
	個に応じた学習指導	習熟度別授業の工夫と上位層を伸ばす授業の充実	学力に応じた効果的な授業が展開され、全ての生徒の学力が確実に向上することを目標とする。また、個別指導を深化させる。	①習熟度別授業を実施する教科・科目を増やし、より個々の学力に応じた授業を展開する。 ②生徒が自身の学力に応じた課題を、自ら選択でき、困り感やつまずきを感じることがないように学習課題や支援の方法を研究する。	B	【成果】成績上位層には発展的な内容や応用問題を扱う時間を確保できた。習熟度グループが固定されないようにクラス編成にも配慮した。自分のレベルに合った課題を選択させ、今の自分に必要な学びを客観的に捉えさせた。 【課題】学習内容だけでなく、生徒の特性や集中力の維持など多様なニーズに応じた支援が必要である。
キャリア教育(進路指導)	進路志望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の充実	生徒の進路志望に合わせた学力の向上と進路目標実現を目指す。	①生徒の基礎学力の確立に努めるとともに、学年集会やLHRを活用して個に応じた進路学習の進捗を支援し、主体的な学びに繋がるようにする。 ②文系・理系及び特進クラスそれぞれの特性を生かした教科指導及び教育活動を行う。	B	【成果】①学年集会、保護者会、外部講師招聘講演会等を通して進路指導部の方針を伝え、本校が目指す方向性を指し示すことで生徒たちの進路意識高揚につながることができた。生徒たちの主体的な学びに貢献できた。 【課題】②特進クラスの編成について学年間の理解の共有をさらに図らなければならないと考える。
	進路意識の高揚	生徒の進路意識を具体化するための指導の充実	生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な勤労観や職業観を持つとともに、大学での学びに関する理解を深め、進路意欲が高まった状態を目指す。社会の動きに関心をもち、持たせるといった観点に立ったキャリア教育を目指す。	①進路指導部でキャリア教育講演会、インターンシップ、若駒キャリア塾(職業別講話)等を企画・実施する。 ②進路指導部で、一日若駒大学(出張講義)等を企画・実施する。 ③進路指導部で各学年のニーズに応じた行事を企画する。	B	【成果】具体的な目標に沿った講演会の講師の選定を行うことができた。若駒キャリア塾、一日若駒大学、キャリア教育講演会の講師陣の選択がうまくいき、生徒たちの感想文の中にも満足度の高さがうかがえた。 【課題】インターンシップ等、実際の体験学習に対する積極性を生徒たちの中に培う必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	交通安全意識の励行	交通ルール、交通マナーを遵守し、無事故、無違反の状態を目指す。	①通学手段別の集会を事故後だけでなく、未然に実施し、交通安全の意識を高める。 ②交通安全を確保するため講習会を実施する。	B	【成果】①これまで年間8回の集会を実施し、事故防止の注意喚起を行うことができた。②交通安全講習会については3学期に実施予定である。 【課題】昨年度より事故件数が増加した状況があるので今後も引き続き未然防止のための注意喚起を行っていく必

	生徒会活動・部活動の活性化	学校行事の創意工夫と部活動の活性化	生徒の意見や思いを尊重し、現状に即した適切かつ主体的な学校行事が実施された状態を目指す。また、適正な部活動数にするための計画的な精選を目指す。	①月2回程度生徒会スタッフ間で現状報告と情報共有を実施する。 ②学校行事の反省を整理し、改善に向けた方策を検討することを積み重ねる。 ③部活動内規の検討など計画的な顧問会を実施し調整を図る。	B	要がある。 【成果】生徒会担当を中心に学校行事ごとにおける情報交換を定期的に行うことができた。また、行事ごとのアンケート結果を部会等で共有し次年度に向けた検討を実施している。 部活動については、計画的な顧問会議を実施することができた。 【課題】生徒会スタッフ・担当者との情報共有においては、ICT活用も積極的に行っていきたい。普通教室ならびに体育館大規模改修を見据えての学校行事の在り方を計画的に検討していくことが急務である。 部活動数の精選については、今後も状況をみながら進めていく必要がある。
人権教育の推進	推進体制の機能強化と研修の充実	基本的認識の深化及び啓発の充実	「熊本県人権教育啓発基本計画」の着実な推進を図り、職員の人権教育に対する認識を深め、あらゆる場やあらゆる機会をとおして人権意識の向上を目指す。	①全日・定時・附属中合同人権教育校内研修を実施し、職員間の共通認識の徹底を図る。 ②校外人権教育研修に全職員1回以上参加し、最新の課題を学ぶ。 ③校内人権掲示板をとおして生徒・職員・保護者に必要な情報提供を行う。	B	【成果】4月、7月に予定どおり合同研修を実施した。また、校外研修に全職員が1回以上参加し、人権課題の理解を深めることができた。 【課題】保護者への啓発を更に推進したい。
	命を大切にすることを育む指導	授業の充実	発達段階に応じた人権教育LHR特設授業に加えて、最新の人権課題について全教科領域で年1回以上取り組む。	①「命を大切にすることを育む」をテーマに全教科及びHR等で振り返る場を設定し、指導する。 ②生徒への配慮事項等について、職員間で共通理解を図る。 ③職員朝会等を活用して最新の人権課題について共通理解を推進する。	B	【成果】生徒職員の評価も概ね高く、人権LHRの場面を活用して、「命を大切にすることを育む」教育を推進することができた。また、職員研修や学年会で、個々の生徒の配慮事項等の確認を丁寧実施した。 【課題】授業の中での啓発をさらに進めていきたい。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見・迅速かつ適切な対応	生徒・職員の意識の高揚	いじめ防止基本方針等の理解促進と、心のきずなを深める月間をはじめ、年間を通じた啓発活動が充実した状態	①「心のアンケート」の年3回実施や、日頃のコミュニケーションを通じていじめの早期発見・迅速な対応に努め	B	【成果】①「心のアンケート」を年3回実施し、生徒理解に基づいた生徒支援を実践できた。 ②特別な配慮を必要とする生徒への支援の在り方を検討し、適切な支

			を目指す。	る。 ②特別支援教育・生徒支援委員会等を活用して、職員研修の充実を図る。		援を行うことができた。 【課題】心のアンケートについて、より効果の高い実施方法を検討する。
	生徒理解の推進	組織的な生徒支援	関係職員による生徒情報の共有と効果的な支援策を提供するための委員会を開催する。教育相談活動が適正に行われるよう、職員研修を実施し情報提供や意見交換を行う。	①生徒支援研修を定期的に開催し、生徒理解の推進を図る。 ②SC、SSWの活用方法を周知し、効果的な運用となるようコーディネートする。	A	【成果】定期的に生徒支援研修を予定どおりに実施し、日頃から家庭、担任、養護教諭、学年団が連携し、生徒理解を推進できた。 【課題】研修で個々の生徒の顔写真を表示するなど、研修の進め方の改善が必要である。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	育友会との連携	育友会総会・学校行事での連携の充実	育友会と行事の連携についてしっかりと話し合い、円滑な運営と協力態勢を築く。	①育友会総会、体育祭、若駒祭、小岱山一周大会での協力を進める。 ②育友会と協力して行う学校行事について生徒や保護者の声を育友会だよりに掲載していただく。	B	【成果】①新会長、執行部と行事に関して、事前にしっかりと打合せを行い、各行事協力して進めることができた。 ②以前より保護者の声を多く掲載していただくようになった。 【課題】②行事と離れた特集の掲載など、内容についてももう少し協議していく必要がある。
	開かれた学校づくり	関係機関との連携	総合型コミュニティ・スクールをはじめ、様々な関係機関との連携により、本校の魅力化等に向けて、活発な議論が行われる状態を目指す。	①年間2回以上、学校運営協議会を開催し、各委員から、幅広く意見を伺い、学校運営に生かす。 ②地元自治体(玉名市)との連携を強化する。 ③上級学校(大学等)との連携を強化する。	B	【成果】①学校運営協議会委員の方々からいただいた建設的な御意見を学校運営に活かすことができた。②「玉名市内高校まつり」への参加や本校の探究活動への協力体制など玉名市との連携が深化した。③「若駒大学」に東京大学、京都大学、大阪大学をはじめ多くの大学から講師を派遣いただき、大学との連携が進んだ。 【課題】探究活動を柱とした玉名市や熊本大学等との連携を強化しながら、業務の効率化をとおした負担感の軽減に継続して取り組む必要がある。
健康保健指導	健全な心身の育成	健康に関する意識の高揚と健康診断後の早期受診指導	心身の健康に関する意識を高め、生活習慣等の行動の変容を目指す。	①健康診断、保健調査等を適正に実施し、生徒の健康管理を徹底する。 ②専門家による講演会を開催し生徒の見識を高める。 ③保健だよりや行事での情報発信や啓発を行う。	B	【成果】1学期の健康診断、日々の保健調査、性教育講演会、保健便りの発行など予定どおりに実施し、生徒や職員の評価も良好であった。遅刻・欠席の生徒に必ず声掛け等を行い健康管理を推進した。 【課題】健康教育や情報の発信については、保護者への伝達や啓発がより伝わるような工夫

	環境教育の推進	学校版ISOの取組と環境美化活動の推進	環境週間や環境美化への取組を徹底し、ICT活用によるペーパーレス化を進める。	①学校ISOを周知徹底する。 ②美化委員会を中心に美化チェック活動を実施し、校内の環境美化に対する取組を向上する。	B	を重ねたい。 【成果】生徒・職員がいっしょになり環境美化に取り組むことができた。また、美化委員が率先して美化チェック活動を実施した。 【課題】ごみの分別が徹底していないことがあり、学校ISOの推進をさらに図りたい。
新しい学びの推進	言語力向上および探究的活動の充実	読書活動の推進 校舎改築に伴う計画・準備・実施	ICTを活用した図書館情報の配信を行い、多くの生徒が利用している状態を目指す。 校舎改築に伴う計画・準備・実施をスムーズに行う。	①図書館蔵書検索サービス「カーリル」の活用を進める。「考人」および新書案内のClassroomでの配信等を行う。 ②朝読書等学年団と連携した読書活動をすすめる。 ③事務部と連携し、開館に向けた取り組みをすすめる。	B	【成果】①に関してカーリル検索対象を近隣公共図書館まで広げて、利便性を向上させた。また「考人」の発行回数が昨年度より増加した。それ以外はほぼ昨年並みの取り組みとなった。 ②に関しては昨年度と同様の取り組みであった。生徒の読書時間の確保について検討したい。 ③に関しては、図書司書を中心に、恙なく取り組みを行って、図書館開館に向けて、生徒へ最大の配慮を行っている。 【課題】SNS全盛期に生徒をいかに読書活動に誘い、言語力を向上させるかが最大の課題である。
		総合的な探究の時間を中心とした、学校教育活動全般における探究的活動の展開	進路や学問、現代社会の諸問題に関するテーマを設定し、熊本大学や地元自治体、外部団体と連携を取りながら、主体的に学ぶ力の育成を行う。討議や論文作成、外部への情報発信を行う中で、思考力、表現力、対話力の習得を図る。	①外部機関との連携を図り、グループおよび個人による探究活動を深化させる。 ②探究活動の結果を、積極的に外部へ発信する。 ③高校魅力化コンソーシアム事業の基礎的な枠組み作りを行う。	A	【成果】①②に関しては、本年度、新たに熊本県防災減災フェアに参加し、探究活動の深化と外部発信を促進した。 ③に関しては、玉名市のコーディネーターと連携を密に取り、コンソーシアム事業の基礎的な取り組みを進めることが出来た。関連する取り組みが報道機関でも取り上げられた。 【課題】コンソーシアム事業の導入に伴う業務負担の軽減が課題である。
	ICTを利用した学習活動の充実	ICT機器管理 ICTの先端的な活用研究の推進および新学習指導要領の円滑な実施 情報モラル	生徒・職員が利用する機器(すぐるを含む)について、いつでもどこでも利用できる体制を整えることを目指す。 職員の情報活用能力が向上し、ICTを活用するこ	①定期的な職員研修を実施する。(デジタル採点の普及) ②デジタル採点を普及させ、得られたデータを生徒の学力向上や授業改善に生かす。 ③学習活動にお	B	【成果】①②に関しては、ある程度普及と活用が進んだことで個別での対応となった。替わって生成AIの利活用が研修のメインとなった。また③④に関しては、ICT支援員のサポートを受けながら、各教科でのさらなる利活用が進んでいる。また本

			とで生徒が効果的に「主体的・対話的で深い学び」が実現された状態を目指す。	ける「習得」の場面でのICTの積極的な活用を進める。 ④学習活動における「活用」「探究」の場面を重視した授業改善を図る。 ⑤ICT機器の利用時には、利用者・管理担当者間で事前に連携を図り、スムーズに使用できるようにする。 ⑥ICT機器の故障・破損時にICT支援員と協力し、代替機等の準備により継続して利用できるようにする。		年度は、慶應義塾大学と結んで、生徒に向けて情報モラルの研修を行うことが出来た。 ⑤⑥に関しては、ICT支援員の献身的なサポートを受けて、ICT機器の円滑な使用に努めた。 【課題】①に関しては、生成AIの研修を行う予定であるが、時間的負荷が低く、かつニーズに合わせた研修を実施することが課題である。 ②に関しては、教科での個別性が高いため、各教科にDATAの活用を呼び掛ける。 ③に関しては他校の取組等を研究したい。 ④⑤に関しては校舎改修に伴うICT機器の管理で混乱があったことが課題である。
中高一貫教育の推進	6年間を通じた中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育校としてのグランドデザインの構想	スクール・ミッションやスクール・ポリシーについて共通理解が深まり、中高の全教職員が協働して、6年間で生徒を育成する指導体制が確立された状態を目指す。	①日常的に「9つの資質・能力」ルーブリック表の活用を推進していく。 ②中高それぞれの進路検討会等への校種を超えた職員の参加を促す。	B	【成果】各行事を計画・運営する際、目的を明確にし、育てたい資質・能力を生徒自身認識できるようにしている。中高相互授業参観や、中高合同教科会を開催しながら、6年間を見通した指導体制を常に見直したり、改善したりする機運が醸成した。今後も継続してより良い指導体制の確立を目指す。

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の最大の魅力は、中高一貫教育である。職員数の不足等の課題はあるが、中高の枠を超えた授業等の取組みを今後も進めてほしい。 ・命を大切に作る心を育む指導や、いじめの未然防止と早期発見に関する保護者及び教職員の評価が生徒に比べると低いように思うが、それは保護者や教職員の意識の高さの表れともいえるのではないか。 ・目標設定をさらに評価しやすいものにしたらどうか。 ・災害時の連絡をさらに早めにしていただけると良い。 ・生徒が自分で選んだ学校の生活に満足していることは良いことだと思う。 ・高度な専門書を置くなどして図書館のさらなる発展を図ってはどうか。
--

<p>5 総合評価</p> <p>本年度の本校教育スローガンは、「夢実現・未来への挑戦～知性と感性を備えた若駒たれ！」とした。</p> <p>今年度の学校評価表における各項目(20項目)の評価はA:2項目、B:18項目、C:0項目、D:0項目という結果であった。また、12月に実施した生徒・保護者・職員の学校評価アンケート及び2月に開催した学校運営協議会における学校関係者評価においては概ね高い評価を得ることができた。今後も持続可能な開発目標に貢献し、日本や世界の様々な分野で活躍できるグローバル人材や地域社会の発展をけん引できるリーダーの育成を目指し、県北地域の進学拠点校として生徒や保護者、地域から信頼される学校づくりを推進したい。</p> <p>学習指導に関して、評価方法の見直しを行い、生徒対象のアンケートでは学習指導に対する肯定的な意見が昨年度より3.3ポイント増えて94.4%であった。また、言語力向上及び探究的活動の充実の項目については校外との連携がさらに深まり、生徒の表現力や対話力伸長の一助となっている。中高一貫教育の推進については、中高教職員による相互授業参観や合同教科会の開催など中高間での情報共有や課題の共有など指導体制の改善に向けた取組みが実践できている。</p>

6 次年度への課題・改善方策

- ・業務の削減や効率化を推進し、長時間勤務の削減に向け、引き続き業務改善に努める。
- ・個に応じたさらに効果的な学習支援の在り方について継続して取り組む。
- ・外部機関とも連携して生徒の交通安全意識の高揚を図り、事故の未然防止に取り組む。
- ・部活動数の適正化に向け引き続き検討を行う。
- ・インターンシップ等、実際の体験学習に対する積極性をさらに育成する。
- ・保護者や地域に向けた学校情報の発信について改善を進める。
- ・「本校に入学して・入学させて良かった」に対する生徒及び保護者の肯定的回答が100%となるよう、個に応じたきめ細やかな支援や指導及び保護者への適切な情報提供に取り組む。